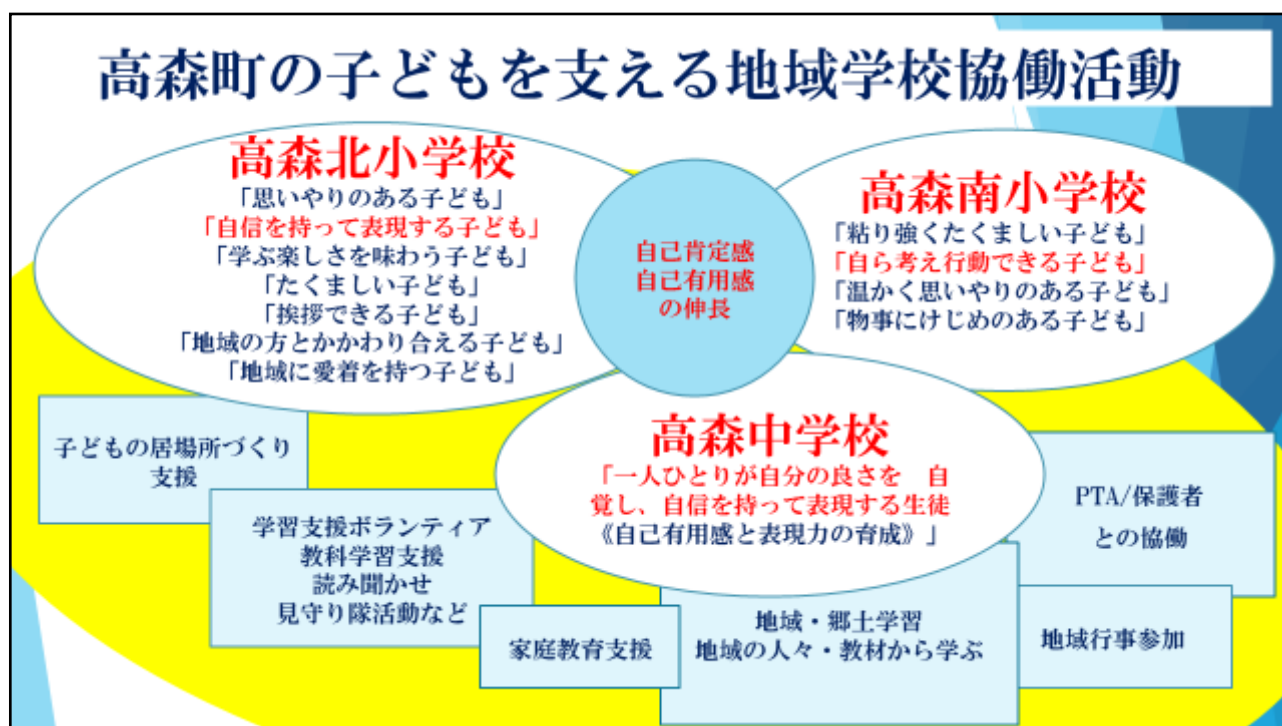


自ら考え行動し、自信を持って表現する高森の子に！

親・PTA・地域は何ができるのか、何をしなくてはいけないのか

◆第2回高森町小中学校運営協議会を9月10日に行いました。

第1部では、授業参観で三校の子どもたちの学びの姿を見せていただき、第2部では様々な立場から1学期における子どもたちの様子について報告いただいたあと、「今、PTA/地域で何ができるのか、何をしていくことがいいのか」を討議（熟議）しました。



一学期の子どもの様子、協働学習・支援の様子について

地域・郷土学習 地域の人々・教材から学ぶ

学習支援ボランティアの活動

◆三校の校長先生からは、1学期における子どもの様子・活動を報告していただきました。

1) 高森中学校の高宮校長先生からは、各学年の地域協働学習の様子を報告していただきました。

3年生は、前号で紹介した「高森の時間」の探究活動についての取り組みが進んでいることを、

3年1組	スポーツを通して町民の運動不足を解消する
3年2組	高森町のPR ショート動画の作成 お店紹介 観光PR
3年3組	きれいな町への挑戦 池の生態調べ ゴミ拾い 池の水抜き
3年4組	農業を通じて高森町を盛り上げる

2年生は、「しごと未来フェア」に関わっての変化の様子、1年生は地域を知ることがテーマに、天竜川、和菓子、秘境、伝統文化、農業について探究活動

を進めているという報告がありました。

2) 高森南小学校の田本長先生からは、「つなげ合う」をテーマに掲げ、PTA・教師がつながり合うことをめざして取り組んでいることや、各学年の地域協働学習について報告があり、6年生



はそれぞれのクラスの活動1組：湯ヶ洞を盛り上げる、2組：竹の問題を考える、4組：満蒙開拓、平和について考えること、3組：不動産をPRすることに関わって地域の協力受けて夏休みに取り組んだこと、3年生がお年寄りとの交流活動が活発にでき喜ばれたことが報告されました。その中で、学習に当たりボランティアの皆さんとの事前の打合せ時間がなかなか取れ

ないこと、学校と地域をつなぐコーディネーターの役割のあり方が課題として挙げられました。また、読み聞かせ「ぐりとぐら」の皆さんとの学習や、見守り隊の皆さんの活動も報告いただきました。

3) 高森北小学校の辰野有紀校長先生からは、地域との協働学習として「ほたるに関わる活動」の様子が報告されました。(ほたる管理委員の皆さん、信大藤山先生との交流学习・ほたる太鼓の学習) また、2年生が地域公園をPRしていきたいと建設課長さんと懇談をしたこと、高学年が消防団の皆さんと一緒にプール清掃したことが報告されました。課題として子どもたちの表現する力をもっと伸ばしたいということも話されました。

地域行事参加・地域で育つ子ども

子どもの居場所づくり

家庭教育支援

◆ホテル管理委員会代表で、地域コーディネーターの橋都洋治さんからは、平成10年から続く「ほたる飼育活動」を通して、保育園から小学生、中学生、高校生も取り組んでいる高森北小学校の核となる活動であるという報告があり、同じく地域コーディネーター村松裕志さんからは、地域の「育成会」の活動で子どもたちが育っているという報告や、「中学校美術部の活動支援」について報告がありました。

◆「おてこの会」代表(学校運営協議会委員)の倉沢千穂子さんからは、保育園から小学校・中学校までの教室における様々な学習支援を行っていること、不登校親の会、教育支援センター「ぱれっと」、子育て支援室と情報共有・連携しての活動で、子どもたちが外に出て問題解決していく姿を大事にしていく姿があることが報告されました。また、高森町にはなかった「子どもカフェ」を、安養寺さんの支援をいただき立ち上げたことを報告いただきました。商工会壮年部、学校支援ボランティアの皆さんの協力で「子どもカフェ おひさま」を月1回のペースで進めていく計画が話されました。



◆教育支援指導主事の齊藤辰幸さんからは、一学期の長期欠

席児童・生徒(30日、50日)が減少したことが先ず報告されました。(増え続けてきた長期欠席の子ども数 昨年比-5)

自分らしい学びを大事に考え、教育支援センター「ぱれっと」での居場所づくりで、保育園や宅老所、農業体験などをおして自分らしい学びをしていく中で、自分を伸ばしている子どもたち

の姿が報告されました。これから、民間企業へも協力を求めていく方向で進めているという報告がありました。「夏休み宿題サポートプロジェクト」には延べ194名の子どもが参加した。33名のボランティア、中学生5名、高校生1名の協力もあった。「中学生地域応援ボランティア」には55名の参加があったという報告がありました。

◆子育て支援室長の前田奈美さんからは、一学期の教育相談の様子等について報告いただきました。

◆一学期には、このほかに中学生の毎週水曜日に、放課後教室「小原ヶ丘塾」も実施されました。今年度は「数学」と「英語」が行われ、中学3年生が参加しています。

熟議1 授業参観から気づいたこと

○教師の「声がけ」が非常に大切である

- ・ここで話せば！というポイントを逃さず声がけをしていくこと
- ・個別指導における子どもを「認める声がけ」や「支える声がけ」は重要
- ・対話的な声がけも大事
- ・遅れて登校した子に「おはよう」と元気に声がけしたら、他の子どもたちも元気に挨拶をしていた。子どもに見せる教師の姿、かける言葉、かかわり方の影響の大きさを感じた



○話し合っている場面があまり見られなかった。もっと学びの主導権を子どもに委ねる授業を 子どもが主人公の授業への転換を！

○発言のルール、ある程度きまりが必要

○1時間の「課題」「めあて」はだれが見てもわかるように提示したい

○モノづくりをしている子どもたちの姿

はとても意欲的 座学ではない授業を

○タブレットの使い方をマスターしている子が多いが、使っている子と使っていない子がいた

○どのクラスにもカラーがあり、先生たちは一生懸命である（全体、個人への心配りが見られた）

○探究的な学習、子ども同士で高めていく学習、自ら動く学習へ転換を 教師もそのための研究が求められる



熟議2 PTAとしてやっていくこと（出来ること）は

○PTAは無くせない。今は子どもを真ん中にして子育てを考える時。つながりをつくるのは子どもだけではない！ 親こそ！

○積極的に学校行事に参加することが大事 PTA活動は受け身、指示待ちではなく、ある程度自発的なものであってほしい

○保護者同士がまずつながり理解し合うこと。学び合うことが大事

○親が孤立しないで親同士がつながれるような仕組みができるといい

- もっと学校に足を運んだり、懇談会に参加したり、行事に参加したりして、学校と良い関係を築いてほしい
- ぜひ「父親」も巻き込んで活動できるようにしたい
- 親として、子どもの話をゆっくり聞く 親が仲良くする 子どもの前で学校の先生の悪口は言わないこと 自己肯定感が高まるかわりを
- 無償の愛が子どもに伝わることを願う
- 自分の子どもだけでなく、他の家の子どものことにも関心を持ち、学校について新たな発見ができるとよい
- 高森町の三校PTAが足並みそろえて、子どもたちにできることを考えることが大事ではないか ぜひ考えて！

熟議3 地域としてやっていくこと（出来ること）は

- 防犯、防災 子どもたちの見守りは今まで通り必要である
- 地域ボランティアが必要な活動を、年間計画で時期を明確化すること（早めの対応が大事）
- 地域のつながりの大切を考え、行事に参加するなど日常のコミュニケーションが大切
- 日頃からの声かけ、挨拶「行ってらっしゃい」「おかえりなさい」「こんにちは」が大事
- 地域行事、伝統行事を伝えていくこと 子どもたちへの文化継承を大事にしていく
- 学校の授業に参加すること ○お年寄りをもっと使ってよい
- 環境整備の手伝いをやっていきたい
- 地域の中でも異学年交流ができる居場所づくりを工夫したい

熟議4 教育課題に関わって

- 学校職員の勤務時間削減は急務である 授業づくりの時間確保をどうするのか。一斉授業の限界か。
- 子どもたちが学びたいことや学び方を選んで進めていくことで自己肯定感を高められないか
- 特別支援教育のさらなる充実が必要ではないか ○落ち着いて教室にいられない子の支援を
- 希薄になりつつある人間関係、その築き方を学校で学ばせる必要があるか
- いじめ・不登校への対応をきめ細かく
- 不登校児を抱える保護者の心理的不安やストレスを軽減する取り組みを是非
- 表現力を付けたいという課題に対して、そのためには自分を受け入れてくれるという安心感が教室にあることが前提ではないか
- 子どもが楽しい授業をどう作っていくか、みんなで考えていきたい
- 「学校改革」とは各校でどのように考えていて、具体的な姿として一つ示してほしい

◆学校運営協議会委員、地域コーディネーターの皆様からは、本当に貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。主なご意見をご紹介します。どれも本当に大事なご意見です。できるところから関係者間で詰めていかなくてはと思います。

◆また、今号を読まれた皆様からもご意見等ありましたらお寄せいただくとともに、学校へ、そして子どもたちへ支援できることがありましたら是非お願いしたいと思います。（館長）